

わたしはぶどうの木です（イエスとはだれか④）

ヨハネの福音書 15 章 1～17 節



イエスキリストは、ご自分のことを「良い羊飼い」そして私たちを「羊」として語られました。さらにここでは、ご自分を「ぶどうの木」私たちを「枝」にたとえられます。羊もそうですが、ぶどうの木はイスラエルの人々にとって馴染みの深い祝福と喜びの象徴です。そのため、ぶどう、ぶどう酒、ぶどう畑、ぶどう園などがオリーブやいちじくとともに、たとえに用いられます。

① イエスキリストは、私たちが実を結ぶことを願っておられる

“わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。” 5

“こういうわけで、私たちもそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたが、あらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころについての知識に満たされますように。また、主にふさわしく歩み、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる良いわざのうちに実を結び、神を知ることに於いて成長しますように。” ヨハ11:9-10

② 実を結ぶためには、刈り込みが必要となる

“わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫です。わたしの枝で実を結ばないものはすべて、父がそれを取り除き、実を結ぶものはすべて、もっと多く実を結ぶように、刈り込みをなさいます。” 1-2

③ 実を結ぶためには、枝が木にとどまっていなければならない

“わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木にとどまっていなければ、自分では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたもわたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。” 4

“あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。” 7

“父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛にとどまりなさい。わたしがわたしの父の戒めを守って、父の愛にとどまっているのと同じように、あなたがたもわたしの戒めを守るなら、わたしの愛にとどまっているのです。” 9-10

<話し合ってみましょう>

- ・イエスキリストに「とどまる」ということについて話し合ってみましょう。
- ・イエスキリストにとどまることによって結ばれる実とはどのようなものだと思いますか。